

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：35503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24611031

研究課題名(和文) 祭りの再生と観光資源化プロセスの日韓比較

研究課題名(英文) Comparative on revival of festivals and process of tourism resources in Japan and Korea

研究代表者

李 良姫 (LEE, Yanghee)

東亜大学・人間科学部・教授

研究者番号：30545421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：日韓における祭りの再生と観光資源化について観光的な理解を深める研究目的を達成するため、日韓における幅広い現地調査及び文献調査を行い、以下の主な研究成果をあげることができた。韓国の祭りの衰退の原因は、日本植民地支配による影響より、キリスト教及び近代化の影響が大きい。日韓において伝統文化の観光資源化が積極的に行われている。祭り開催は、韓国は行政、日本は地域住民が主導することが多い。地域の伝統文化は地方のインバウンド観光の拡大につながる。少子高齢化時代には祭りの観光資源化が有効な手段になりうる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to deepen understanding of creation and revival of festivals in Japan and Korea. The results through field work and literature study are as follows;

The decline of traditional festivals in Korean is due to the influence by Christianity and modernization of its society; In Japan and Korea traditional festivals have become tourism resources;

The organizer of festivals are mainly government in Korea, and citizens in Japan; The traditional culture may lead to increase of inbound tourists of the region; The festivals can be effective objects in the period of aging society with fewer children.

研究分野：観光学

キーワード：祭りの観光資源化 日韓祭りの比較 インバウンド観光 観光による地域振興 観光による地域活性化
人口減少による観光への影響 観光政策 地域政策

1. 研究開始当初の背景

1) 伝統文化の衰退と再生プロセスの解明

伝統的な祭りが再生され、観光資源として再生活用する動きが日本各地で進んでいる。同様の動向は韓国でも生じており、伝統文化の再評価と観光資源開発が結び付いた現象として一般化されることが多い。しかし両国で進行している祭りの観光資源化には、社会背景の違いを反映した相違が大きい。

韓国では、国や地方自治体により新しい祭りが創られ、観光イベント化された祭りを開催することで国内外の観光客誘致及び地域活性化に一定の成果を挙げている。一方、韓国で開催されている「祭り」の多くは近年になって創出されたもので、各地域に古くから継承されてきた祭りは僅かに残されているにすぎない。祭りのテーマには地域に縁のある特産物、競演大会、歴史的な事件、人物などが取り上げられることが多く、観光資源づくりの側面が強い。

韓国の研究者の間では、同国において新規創出された祭りが大半を占める理由として、日本の植民地政策によって伝統文化が途絶したことが原因だとする説もある。日本統治期の近代化政策が祭りの消長に影響を及ぼしたことは否めないが、それが途絶原因のすべてとは言いがたい。韓国社会における伝統的な祭りの維持、再興に伴う困難には、韓国社会の特質、複雑な歴史的背景が影響している可能性が高く、日韓両国では、似て非なる現象が生じていると考えられる。

2) 祭り研究の観光的意義

各国・地域で催される祭りは、地域内イベントとしての役割にとどまらず、異文化理解を促す観光資源としての価値が高い。ただし、各国・地域で開催される祭りについて歴史的・社会的背景を視野に入れ、それぞれの社会における伝統文化の衰退と再生プロセスを正しく理解しておくことが前提となる。従

来、祭りの研究は民俗学的視点、経済的な側面あるいは参加者の意識に関する分析がその多くを占めている。今後は歴史的、社会的な背景も視野に入れながら、祭りの衰退と再生、観光化過程を多角的かつ実証的に解明していくことに本研究の意義があると考ええる。

2. 研究の目的

1) 韓国における祭りの衰退と再生プロセス

韓国社会における祭りの衰退と再生のプロセスを解明し、日本における祭り及び地域活性化政策を通じ、伝統文化の再生と観光資源化について観光的な理解を深める。

2) 日本のインバウンド観光政策への提言

韓国同様、インバウンドをはじめ観光客誘致に力を入れている日本の観光活性化政策にも提言する。

上記の目的を達成するため本研究は、日韓両国において現地調査及び文献調査を行い、韓国で観光客誘致及び地域活性化の目的で開催されている祭りの事例を具体的かつ実証的に調査分析した。

3. 研究の方法

本研究課題は、日韓両国における現地調査及び文献調査を行った。

1) 現地調査

韓国 33 カ所、日本 42 カ所、合計 75 カ所で祭り及び観光関連現地調査を実施した。

2) インタビュー・アンケート調査

日本統治を経験した高齢者を対象とした聞き取りを実施した。これにより、各地域で催されていた伝統的な祭りが衰退した過程について分析できた。加えて、近年創造された祭りや伝統的な祭りについて、運営組織、地域住民の参加意識、観光資源としての価値評価など、観光的視点から調査を行った。

3) 文献調査

韓国国立中央図書館、国立中央博物館などの資料所蔵機関において、日本統治期及び前後の祭り関連資料を収集し、分析を行った。加えて、祭り開催地域において祭り関連文献調査を行った。

4. 研究成果

1) 明らかになったこと

韓国の祭りの衰退の原因

日本植民地支配による影響より、キリスト教徒の増加及び近代化の影響が大きい。例えば、地域の祭りの開催と関わりを持つ村の祠などは、植民地時期よりも1970年代の近代化の時期に破壊されたものが大きいことが現地調査より明らかになった。また、祭りの衰退も戦後の経済的困難状況やキリスト教の普及、近代化運動による影響が大きいことが究明できた。日本植民地経験と関連して興味深いことは、負の遺産とされていた植民地時期の建物や街を観光資源化しようとする動きが積極的に行われることである。例えば、植民地時期に多くの日本人が居住していた旧日本人村を整備し、地域の観光資源として定着させている。

日韓における伝統文化の観光資源化

日韓において伝統文化の観光資源化が積極的に行われている。韓国では、祭り開催により地域活性化に成功した事例が多くある。

とりわけ、地方自治制が本格的に実施された1995年から現在に至り、新しく創られ、観光活性化を目的として開催されている祭りがほとんどである。伝統芸能公演施設経営に関する日韓比較を行った結果、韓国の場合には無料公演が多く、国や官主導の経営が主であった。日本の場合でも第三セクターや行政による経営が多いが、有料公演となっている。日韓両国において、施設の運営には人材育成が課題になっていることが明らかになった。

祭り開催の主体

祭り開催は、韓国は行政、日本は地域住民が主導することが多い。しかし、日本においても祭りの主導的担い手の高齢化が問題になっている。こうした解決策として、大学生の地域イベントへの参加は、地域活性化に貢献し、世代交流・地域交流・国際交流に貢献できる。加えて、観光関連実務教育にも影響を与えている。

伝統文化の活用によるインバウンド戦略

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催の決定及び、2013年訪日外国人数が1,000万人を超えたことで、インバウンド観光が有効な地域政策として注目を集めていると同時に地域活性化と国際交流に大きく貢献できる。韓国では早くから伝統文化を活用した外国人観光客誘致が積極的に行われていた。日本でも地域の伝統文化を活用した観光客誘致に取り組むようになった。例えば、広島県山県郡北広島町では、外国人観光客誘致に伝統文化である神楽を披露するなど伝統文化を観光資源化する動きがみられている。

一方、地域活性化や国際交流の有効な手段として関心が高まっているインバウンド観光だが、多くの課題も抱えている。とりわけ、官民の連携体制の構築や受け入れ体制の整備、人材育成及び活用、積極的な誘致活動、継続性などインバウンド観光の課題があげられる。

少子高齢化時代における祭りの観光資源化と地域活性化

少子高齢化時代においては祭りの観光資源化が克服の有効な手段になりうる。少子高齢化や地方活性化が共に課題となっている日韓両国において、祭りの観光資源化は地域振興に寄与する。実際に伝統文化などの観光資源化により地域振興につながった事例が

あった。

2) 発信

学会・研究会発表：日韓両国の学会・研究会で日韓の祭り及び観光について発表することができた。

地域発信：行政、地域産業など市民を対象にした講演会で研究成果を生かした講演を行った。

教育：研究成果を高校・大学の教育現場で発信できた。

3) 提言

人口減少・高齢化社会時代における観光振興の課題と解決策について提言できた。

地域の伝統文化など地域資源をインバウンド観光につなげる方法について提言できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

李良姫、祭りの創出・観光資源化の成功要因及び課題 - 韓国咸平郡「蝶々祭りを中心に - 、日本地域政策学会誌、査読有、12号、2014、69-76

李良姫、ボランティア活動からみる祭りの担い手の参加意識 - 韓国『江陵端午祭』を中心に - 、大阪観光大学観光学研究所報、査読無、第19号、2014、54-60

李良姫、担い手からみる祭りの創出と維持-関門よさこい大会の事例から-、大阪観光大学観光学研究所年報、査読無、第13号、2014、37-47

李良姫、伝統文化の観光資源化と課題—神楽公演を中心に—、大阪観光大学観光学研究所年報、査読無、2015、51-57

李良姫、人口減少と高齢化による観光への影響—国および地域の取るべき政策、日本地域政策学会誌、査読無、2016、4-11

[学会発表](計16件)

李良姫、祭りの創出と観光資源化プロセス、日本地域政策学会、日本地域政策全国研究大会、常磐大学、2012

李良姫、大学生の海外祭り運営による日本文化紹介及び国際交流、大学生の祭り参加による地域貢献と国際交流研究会、東亜大学、2012

家根橋伸子、李良姫、地域祭りへの参加を通じた留学生の地域貢献と日本語学習の可能性 - サービス・ラーニングの視点からの実践報告 - 、日本語教育学会中国地区研究集会、山口大学、2012

李良姫、祭りの地域観光資源化方案及び課題、日本地域資源開発経営学会、市民公開研究会・日本地域資源開発経営学会広島部会共同開催、広島県立大学、2013

李良姫、植民地経験の観光資源化、進化経済学会観光学研究部会、特集ダークツアーリズム、GACCOH(京都府)、2013

李良姫、インターンシップが観光教育に与える影響 韓国の観光系大学生の調査を通して、日本観光ホスピタリティ教育学会、第13回全国大会、中村学園大学(福岡県)、2014

李良姫、大学生の地域イベント参加による教育効果と課題、日本観光学会全国大会、大阪市立大学、2014

李良姫、インバウンド観光による地域活性化と国際交流 - 広島県北広島町の取り組みを事例として - 、日本地域政策学会全国大会、金沢星稜大学(石川県)、2014

李良姫、韓国・日本関係文化財、中朝国境視察報告、日韓・日朝交流史研究会、島根県立大学（島根県）、2014

李良姫、祭り参加によるインバウンド観光の可能性と課題、日本広報学会研究大会、東海大学（熊本県）、2014

李良姫、地方におけるインバウンド観光プロモーション戦略と課題、異文化経営学会、研究大会、明治大学（東京）、2014

李良姫、日本における祭り政策動向及び事例研究、韓国観光協会中央会第3回アジア祝祭フォーラム（韓国ソウル）、2015

李良姫、博覧会開催による地域活性化—韓国「順天湾国際庭園博覧会」を事例に—、地域活性学会中国・四国支部研究会（高知工科大）、2015

李良姫、日本における神楽の観光資源化を通してみる伝統文化の変化と保存、韓国南道民俗学会研究大会（韓国光州）、2015

李良姫、張太善・朴恩我、冬祭りにおける体験動機が観光満足及び観光行動に与える影響—北極熊水泳大会参加者を対象に—、大韓観光経営学会安東国際観光学術大会、大韓民国安東グランドホテル、2016

李良姫、伝統芸能公演施設経営と観光資源化に関する日韓比較、異文化経営学会、九州大会（東海大学熊本キャンパス）、2016

6. 研究組織

(1) 研究代表者

李 良姫 (LEE Yanghee)

東亜大学・人間科学部・教授

研究者番号：30545421